

村落を視野に入れたテーマに変更したが、須田本家文書のデジタル画像による撮影・利用・保存を企図したこと、また、須田本家が庄屋であったもう一方の村落である永山村の集落の状況が検討可能ということが判明したこと等から、具体的な検討は従来と同様須田本家文書の撮影と永山村の集落の調査が中心となった。

須田本家文書の撮影については、「明治大学人文科学研究所紀要」第35冊の拙稿収載の須田本家文書目録に従いながら、冊の部【土地】7点、冊の部【村政】27点、冊の部【村況】12点の合計46点のデジタルカメラによる撮影が2003年度には終了した。

永山村の集落調査に関して、最も大きな収穫は今迄未完成であることや開くことに広い面積が必要なこと等から内容を検討してこなかった永山村絵図（無表題、最大縦195cm、最大横277cm）によって寛永検地帳の屋敷地の所在等がわかり、寛永期の集落を復元できることが判明したことである。永山村の寛永検地帳の屋敷地は98筆であるが、永山村絵図によってそのうち90筆の所在がほぼ判明する。この絵図とその検討結果は「明治大学人文科学研究所紀要」第54冊に「茨城県行方郡旧牛堀村須田本家文書の研究—永山村絵図を中心に—」として報告した。

近世における村民の社会的結合のあり方を示すものとして組や坪があるが、上記拙稿では触れることができなかったもので以下に永山村における組や坪について簡略に見ておこう。

史料上確認できる古い例の組として、「寛永十八巳年御検地以前之古書写」「長山村組高之覚」（『須田氏秘録』巻之貳所収）には以下のごとく組高と組が記載されている。

53.943	半衛門組	52.693	与蔵組
50.597	清十郎組	50.567	勘衛門組
49.660	七兵へ組	47.041	善衛門組
43.498	新三郎組	42.640	甚平組
6.970	別当	(単位は右)	

また、正保3年8月「戌之御年貢納割付帳」（同前所収）には以下のような組が現れている。高は本田の高である。

彦衛門組	66.016	主水組	55.400
与三衛門	66.929	平吉組	54.912
源十郎組	49.349	勘衛門組	50.142
(単位は右)			

前者には末尾に「是ハ指之わり高」とあるので、前者は「指」つまり差銭（村入用に当たる）を割り振る際の組であり、後者は年貢組である。組数が差銭の組のほうが多いのは、より密接な関係を有する村民の結合を単位

近世村落の研究

A Study of the Village Formation in the Edo Period.

門前 博之

KADOMAE Hiroyuki

研究テーマを従来の茨城県潮来市の旧牛堀村須田本家文書の研究から、近世村落の研究へと広げ、関東地方の

としているからであろうか。組名は組頭の名前によって表現しているものと思われるが、両者には十年とは隔たりにないと推測されるにも拘わらず、同一名は勘衛門のみである。組頭の重複を避けているのであろうか。永山村絵図によって前者の半衛門・勘左衛門・七兵衛・善衛門・甚平の屋敷地（清十郎と新三郎は無屋敷名請人）が村内に散在しているのを見ることができる。

組には以上のほか十人組（五人組に同じ）があるが、貞享4年8月「人別改帳」によると、永山村は96軒で十人組の数は10となっている。なお、同帳には牛堀村永山共の庄屋平十郎・組頭藤衛門・助之丞・長兵衛・助衛門となっているが、この組頭は年貢組の頭であろう。とすれば正保3年時よりその組数は減少していることとなる。

坪について、近世中頃と思われる「地理 村鑑 書上」（『須田氏秘録』巻之壺所収）を見ると、永山村の坪名として、原・かんや・東・駒込・ニツや・寺代・くほ・西・平・との内・かち内・三かと、の12の坪名を記している。これらは近世中期における永山村の個々の村民の日常的な生活において最も密接な社会的結合単位であつたと思われる。近世後期では、安政4年正月「永山村正人別書上」は永山村を三ツ家坪組頭浅野助之丞支配（36戸）・西坪組頭方波見与次平支配（38戸）・東坪組頭吉川利兵衛（23戸）の三つの坪に分けているが、この坪は村民の日常生活に密接な社会的な単位ということより、その坪が再編された年貢組の機能をもった坪なのではないかと思われる。

永山村には少々確認しただけでも上記のごとき組や坪がある。それらは近世を通じて同じであったわけではない。永山村の天保13年検地帳の屋敷地数80筆は寛永検地帳の屋敷地名請人の名前とほとんど一致しないが、2002年度と今年度の調査によって天保検地帳の屋敷地52筆についてはその所在地をほぼ確認することができた。村内全体にわたって聞き取り調査を行ったわけではないので、まだ確認できる屋敷地は増えるものと思われる。

寛永検地帳の屋敷地の現在の屋敷地との比定を行うとともに、聞き取り調査を継続しながら集落について検討し、組や坪を通じながら永山村の近世における村民の社会的結合の変動を明らかにしていくことが今後の課題となる。